

Title	第十九世紀に於ける独逸經濟発達の一斑 (四)
Sub Title	
Author	高島, 佐一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.11 (1915. 11) ,p.1297(93)- 1308(104)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19151101-0093

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

て Galveston 市に試みられたる所にして、市長は(理事の一人)四千圓の俸給を受け、一日六時間は市の事務を執るの義務有り。他の理事は二千四百圓の俸給を得て一日二時間の執務義務有り。同市に次で同じ制度を採用したる Houston 市に於ては更に市長に俸給を増加して倍額となし、専ら市の事務に執掌することを規定したり。此の俸給制度の眼目は斯くの如くして成る可く優良なる吏員を得、都市行政の成績を擧げんとするにありしに明白なるが、既に公選制度が優良なる吏員を得るに適せずとすれば、俸給制度に就て大なる期待を爲す能はず。

Lowell 氏も亦た左の如く言へり

「公選は老練なる吏員を得る方法としては甚だ拙である。縦令人民は人の知識的・道徳的・性的を判定し得るとするも、吏員としての資格を十分に調査するの機關も餘暇もないのである。然るに一定の機關が吏員を選定するので

あれば多くの候補者に付て試考し、多くの證材に依つて其の技能を判定し得る。殊に優良なる吏員は選舉場裡に立つことを忌避する傾向があるのである。」

(A. P. S. Review, vol. VII, P. 61)

地方の吏員が公選に係るが爲めに黨派の影響を受ける大なりとせば、是れ所謂 Politics と Administration の混同を來す所以にして。斷じて不可なり。英國の都市に於ては、市會は議決機關たると同時に執行機關にして單に制定の上より見れば所謂政治と行政との混淆を見る可きが如しと雖も、實際に其弊なきは英國人が元來自治的國民たり、市民たるに適應せる性格を有するが爲めにして、吾人の羨望に堪へざる所なり。制度の外形を模倣するは容易なるも、其の根本精神を感得するは難し。予は乃ち Lowell 氏の次の語を以て本稿を結ばんとす。

“There are said to be monkeys in Africa so initiative that they copy faithfully the huts of men, and then live on the outside of them instead of the inside.”

(A. P. S. Review, vol. VII, P. 57)
(輿論政治と行政略り)

第十九世紀に於ける獨逸 經濟發達の一斑(四)

高島 佐一郎

目 次

- (六) 大工業化と資本輸出主義
- (七) 交通業の發達

(其六)

さて工業の偉大なる發達は人口の地理的並に職業的配置を變遷せしめたり。獨立の商賈及職工は激減したると同一比例を以て賃銀に衣食する從屬的勞働者は激増し、大都會及工業都市は靜止せざる無産階級の大人口を包容するに至り、又農村人口を犠牲として工業人口を助長したり。爾餘の西歐諸國に於ても均しく顯著なるに至れる此傾向は、左の普魯西の總人口中農林

從業者が連年遞減の趨勢を繼續せる統計に明なり。即ち一八一六年には農林從業者は總人口の七割八分を占めたりしが、一八四九年には六割四分、一八六七年には四割八分、一八八二年には四割二分五厘、一八九五年には三割五厘七分五毛、今や僅に總人口の二割七分なるを示せり而し是れ實にエッセン、ドルトムント、ボーシェム、マンハイム等の工業諸都市に現はれたる急調無前の發達膨脹を説明するものなりと雖も、之を英蘭土に比較すれば如上獨逸人口の分配變遷の如きは左して驚異す可きを見る可し。即ち一九〇一年に於て既に其總人口の二割五分は大倫敦の一都會に集中せられたるを發見す可ければなり。換言すれば人口の工業化 Industrialisation に就ては獨逸は未だ英國に及ばざるものとす。

急激なる都會生活の發達膨脹に伴ひ一般の居住狀態も亦全く面目を改め、勞働者及中産階級

の居宅として間貸式の巨屋及假建築の大廈は盛に造營せられて自己所有家屋は殆ど都會地に跡を潜め、大都市總人口の八割以上は凡て古式矮屋に比し更に衛生怡樂に適應して建築せられたる賃借家屋に生活する狀況を呈し、隨て都市に於ける建築業は無前の繁榮を示したり。一方商工業の増大したると同一比例を以て他方農林業人口減少したりしこと既述せるが如しと雖も、更に一步を進めて大小農業者は縱へ自家用の範圍を出でざりしとは謂へ、農業を主とせる傍製造業をも兼營せりと看做さる可き場合尠なからざりし事情を考察すれば、此統計の數字には相當の制限を加へざる可らずして、正確に言へば益々顯著なるを致せる職業上の分離は事實上從農者として計算し能はざる商工從業者を増大したるものと爲さざる可らず。ゾンバルト教授が近世工業的技術的發達の特徴を捉へて道破したる「無機物に依る有機物の置換」„Verdrängung

一八七一年以後の工業品輸出額に比較すれば幾々擧ぐるに足らず。一八七五年に於ける製造品輸出額は輸出總額の三割七分を占むるに過ぎざりしが、一九一〇年には實に六割五分の巨數を示すに至れり。

獨逸の化學及電氣工業が世界市場に占め得たる其偉大なる成績は此急激なる進歩の跡を實證して餘りありと雖も、一方製造品の輸出統計上に斯る大増加を示せるものありしのみならず、他方製造品の生産高其者は更に一層巨大の比例を以て膨脹したるは驚嘆に値ひす可し。換言すれば獨逸の一般的繁榮の結果國內消費は更に異常の割合を以て増大したるものとす。之と同時に第十九世紀の中葉に至るまでの獨逸は鐵道、電氣鐵道、瓦斯、水道、運河等の建設修築に要する資本を英、白國等の供給に待ち、隨て是等の元利金の償却上輸出額を増嵩せざる可らざる地位に立てるを以て、外國爲替相場並に保護政

der organischen Materie durch die unorganische“の大勢の爲に此人口の工業化は益々著明なるを致せるものとす。(Rieser, a. a. O. S. 102.) 蓋し燃料として石炭が木材に代り、家屋橋梁船舶機械道具等の材料として鐵が木材に代らんに、人口統計は茲に其の從農人口として數へられたる從林人口は減少し工業的人口の増大したることを示す可ければなり。

吾人は先に國內の交通及通商に關し第十九世紀初頭に存在したる艱難障礙を叙説したりしが、之と共に當年の外國貿易の大勢を瞥見せざる可らず。世人往々當年の獨逸は夥しき農產物を輸出したりしを擧ぐ。當年一方に於て穀物木材羊毛等が國內需要に超へ相當の輸出ありたるも、他方に於て皮革亞麻棉花其他の原料品の輸入は右の輸出金額に超へ、其差額は製造品の輸出を以て決濟したりき。然れど此製造品の輸出額は其年以降工業的發展蔚然として隆興したる

策上比年輸出貿易は非常に助長獎勵せられて實際貸借關係は常に順調を呈したりしが、殊に一八七一年以後二億萬磅の償金が追次佛蘭西より流入し來るに會し、茲に獨逸は一躍して債務國より債權國となり、逆に自國資本を輸出するの域に達せり。現時に於ける獨逸人の海外投資額は無慮七億五千萬乃至十億萬磅と註せらるれば之より生ずる利子又は利潤は海運運賃各種保險料其他商事會社手数料等の收入と合勢して、同國貿易統計に表はれたる逆調的又は消極的國際貸借關係を化して實質上には順調的又は積極的國際支拂關係たらしむ。事實上同國連年の輸入超過は必ずしも海外投資元本の辨濟を意味せずして寧ろ投資貸付の生める利潤利子の償却を表章す。一九一一年に於ける獨逸の輸入超過は正に八千萬磅の巨額に達せりと雖も、而も近年同國經濟界が鼓腹しつゝある經濟的繁榮に對し誰か火山頂上の舞踏なりとして疑を挾む可き。

註、此項を讀んで覺えず回想するを禁じ得ざるものは、曩に「貨幣の意義」及「公債と株券」の名著を英國金融經濟學界に供給して其盛名を馳せたるハートレー・ウィザー氏の「外國爲替論」の第三章「貿易及勤勞」の叙述なりとす。同國有名なる銀行學者エーチ・エス・フョクスウェル教授が同書を爲替論中の白眉なりと讃して之を讀むもの復た類書を繼くを須めずと謂ひ、更に同書の巨大の引力が基づく所のものは何ぞやと自問し來り、當年貨幣學上の權威ジェームス・スチュアートが百五十年前に自問自答したる間、貨幣理論が爾く複雑せるは何故ぞや答、そは變則的な謎語を以て理論を錯雜せしむればなりと謂ふ有名なる一對の問答を引用して「果然ウィザー氏は凡ての謎語の強敵たり退治し盡さざれば止まず」と有ゆる讃嘆の辭を吝まざりし此名著は、慥に我學界を裨益すること尠なからざる可く、亦事實上多大の影響を與へつゝあるを認む。(The Economic Journal, June, 1914, p. 257. 堀江博士貨幣論第十章第七節、同博士銀行論第十六章)序年ら貨幣學上の用語の不統一が貨幣理論の闡明を妨ぐる所以なるを力説せるもの古來尠ならずと雖も、ニコルソン教授及ジョンソン教授明白に之を嘆せるを注意し可しとす。(J. Shield Nicolson, Money and Monetary Problems, pp. 1. 2; J. F. Johnson, Money and Currency, p. 6.)尤も舊く英國の碩學ジェヴォンズが「縱へ手早くも檀りに斷ち去れるものはありとも、我經濟學者の何人と雖も經濟學上の此錯節を解決せるものありしも覺えず」と長大息し、(Jevons, Investigations in Currency and Finance, p. 32.)又近く埃國の博識カール・メンガー教授が「謎の如き貨幣現象は未解決の儘今人に引繼がれたり、貨幣の性質及職分に關す

る最根本的問題に就ても學者間に亦一の定説なし。實に今日に於てすら猶満足す可き貨幣理論に接することなしとす」と慨嘆せるは(The Economic Journal, June, 1892, p. 240.)なほ効力を有し、ラフリン、アーヴィング・フィッシャー、ケムメラーの諸教授が交々立ちて米國經濟學界に雄篇を紹介せる現今に至りても未だ眞なるを失はずとは雖も、そは概ね貨幣の純理殊に貨幣の價值の成立並に貨幣價值變動の原則に關するものにして、吾人の茲に謂へる外國爲替論と相關はること尠しとす。さてウィザー氏は國際貿易は財貨及勤勞の交易にして、輸出入品に財貨、貴金屬等の有形輸出入品、"visible" imports and exports と手形引受料、運賃、保険料、株式配當、公債社債利息等の無形輸出入品、"invisible" imports and exports 存在することを考察すれば一國の國際貸借又は國際支拂は相殺せられ、

輸出品は價格上輸入品と均衡せざる可らざること exports must equal imports を前提し、國際支拂に關する抽象的國際貸借表を假設して其關係を叙説すること輕妙明快なるを見ると雖も、今本文に關係を有するのみならず、債權國たる英獨佛等が輸入超過國たる可くして事實上輸入超過國たり(爰に謂ふ輸出入超過とは謂ゆる有形財の輸出入即ち貨物の輸出入のみを指すこと論勿し)、債務國たる米國露國等が理論上輸入超過國たる可くして實際上亦輸出超過國たるに拘らず輸入超過國たるに對し此年朝野に幾多の論議を絶たざるを目撃するを以て、姑くウィザー氏の所説を叩かんを欲す。Hatley Withers, Money-changing, pp. 60-69, also p. 84.)蓋し卑見を以てすれば我貿易現狀に樂觀するものにも將た悲觀するものにも、共に其論議感情と因襲とに拘りて正鵠を失ひ、立論必ずしも精細ならざるもの尠

なからずして、同氏に學ぶ所多かる可きを信ずればなり。雜誌の傳ふる所の片言隻語固より其真相を捕捉し能はずと雖も、近く十一月八日の我社會政策學會席上に於ける堀江教授の「資本の移動と貿易の變調」は或はウィザーズ氏の系統を踏みたる論辯にあらざりしか。

(國民經濟雜誌第十七卷第六號第一四四頁)
國勢非常の急調を以て發展するも、資本の充實遠く其經濟發達に追從し能はずして盛に公債社債券株券等の有價證券を輸出する時代の新興國としては日本加奈陀露西亞墨西哥を舉ぐ可く、是等にありては勢ひ貨物の輸入超過を誘致す可し、經濟上の發展が猶未だ熾烈に、國內資本のみを以て所要の資金を充たすに足らず、勢ひ一方に於ては有價證券を輸出すると同時に、他方に於ては曾て輸出したる鉅大の有價證券の利札の輸入急なるものあり、而て後者の支拂に應じて猶剩りある生

ける短期資金を借入れ又絶へず其手形期限を更新し、之を以て他國に放資し若くは金融を與へつゝあること明なりとす。

斯の如く外國有證券を輸入するを標準として各邦國を分類すれば概ね左の三種類を得可し。

(一) 新興國民は舊外債の利札を輸入するよりも更に多くの新有價證券を輸出して益々其債務國たる色彩を濃厚にす。而て其輸出新證券の支拂として輸入せらるゝ貨物の價格は自づから其輸入利札の支拂として輸出する貨物の價格を超過す可きが故に、其貿易差額には謂ゆる逆調を呈するを免れず。而て此時代にある邦國は常に寧ろ危險を伴ふものなるを以て外資輸入上相當の戒心を加ふることを必要とす可し。蓋し一旦國際風雲去來嶮しく戰亂、戰爭勃發の恐怖若くは恐慌が民衆を驅りて貨幣を靴下に納めしめ、債權國民爭ひて財布の口

産力を贏得せるものとしては米國印度濠洲殖民地を引例し得可く、是等の邦國の輸出は輸入に超ゆるを例とす。資本充實し盛に有價證券を輸入すると同時に其れに超ゆる巨額の利札配當券を輸出する域に達したる邦國としては英佛獨を引例す可し。更に按ずるに舊き海外投資利拂の一部として貨物を輸入し、又其一部を新投資に振替へつゝある點に就き英國と揆を一にせる先進國としては佛蘭西獨逸和蘭白耳義及瑞西を數ふことを得。就中獨逸を採りて之を觀る。同國連年貿易上の逆調を示しつゝある理由の一は慥に英國の如く其偉大なる海運業の齎らす利益に依るものなる可し。而して潑刺たる經濟發展の途上にある獨逸が膨脹熾まざる自國企業に投資を試み、更には外國企業に對して放下す可き莫大の資金を剩まし得たりと覺えず。されば同國は其大膽敢爲の銀行業を利用し、巴里倫敦兩市場に於

を締むることあらんには、此證券輸出時代の邦國は一方新證券を輸出し得ざると同時に、他方取付けられたる利札配當券を支拂はざる可らざる羽目に陥るなきを必ず可らざればなり。加之外債の困難ならざる限り、是等の國民は唯一筋に百花燎亂たる將來のみを趨望するの餘、自づから何時かは到達す可しと信ずる生産力の根源をも外國資本の抵當たらしめて顧みざるの弊あるものとす。

(二) 新進氣鋭の邦國たるも同時に一層經濟的發達を遂げたる國民に至りては、猶新有價證券の輸出を絶たずとは謂へ、之よりは更に鉅額の舊外債の利札を輸入す可きが故に、其利息支拂用として盛に貨物を輸出す可く隨て其輸出入差額は謂ゆる順調として表はる。

(三) 更に數段の經濟的發展を遂げたる先進國民に至れば、外國證券を輸入するよりも一層の大速度を以て利札配當券を輸出す可く、債務

國は其利札を支拂はんが爲めに商品輸出す可きが故に、其外國貿易は逆調を呈し有形的輸入品は必ず輸出品に超過す可し。今一例を舉ぐれば、英國の海外投資より生ずる債權は年額約十八億萬磅に達するを以て、縱へ同國が年額十六億萬磅の新有價證券を輸入すとなすも、猶約二千萬磅丈は何等の有形的輸出品を以て支拂を爲すを要せざる所の貨物を輸入し得可きを發見せん。

以上ウィザース氏所説の一端を叩きたり。思ふに英佛獨等の先進國が既に利札輸出時代 coupon-exporting stage に到達し北米合衆國が利札輸入時代 coupon-importing stage に進入したる今日、我日本帝國は當に第一期たる證券輸出時代 security-exporting stage を歩めりウィザース氏の謂ゆる總輸出入均衡の原則より觀察して其連年の輸入超過の趨勢亦避け得可らずとす。然りと雖も吾人は英國正統學

派の流を掬みて自由貿易の舊想を夢むものにあらざして、唯新興國が一度は斯る狀態に苦壓せらる可き一般的傾向を認め、世上有識の士屢々經濟理則に耳を掩ひ徒に悲壯の論議を高調するの寧ろ時務に迂にして世に用なきを警めんとするのみ。若し夫れ放縱なる外資輸入の往々危殆を孕み、無策の通貨膨脹が輸入を助長するを憂ふるに至りては吾人豈人後に落つるものならんや。

(其七)

斯の如く獨逸は巨億の資本を海外新進國に放下し債權國の地位に到達したるを以て、然らざる場合に於ては到底難かる可き多大の工業的人口を支持することを得るに至れり。此間の消息は同國海外移民が近年全く其跡を絶てる事實に依りて證明せらる可し。從來の記録を破れる一八八二年に於て二十二萬九百二人の獨逸人は祖國を捨て重に米國に移住したりと雖も、同年以

後移民數は年毎に減退し、一九一一年の移民總數は二萬二千六百九十人、一九一二年には約二萬を示せるに過ぎず。而て斯る少數の移民は獨逸移民に依りて優に相殺せられたり。

第二期中斯く發達の趨勢を繼續し來れる農業狀態より工業狀態への變遷運動は、會々當年食料品供給國の競争激烈を極めたりし七十年に入りて、更に數段の大發達を遂げたり。人及資本が最大報酬の見込ある産業に流動するは經濟上自然の法則にして、獨逸人口の地方的並に職業的移動之を明證す。一八一六乃至七一年には主農地方の人口に九割一分、西部及南部獨逸に二割三分の人口増加率を示せるに對し、一八七一乃至一九〇〇年には前者に二割六分、後者に七割九分の増率を見たり。是に於てか、叙上大勢に依り最も深き影響を蒙りたる貴族及大農階級は、其危局より脱出せんが爲めに一齊に立ちて政府保護の運動を開始したりしが、當時會々軍

備費大膨脹に應ず可き新財源を穿鑿しつゝありし帝國政府は直に之に應酬し、一八七九年工業原料品たる農産物の輸入に對して保護關稅政策を採用し、爾後幾度か一般生活費の昂騰を忍びつゝ關稅率を引上ぐる所ありしに拘らず、獨逸が益々工業國たらんとする傾向には何等見る可きの影響を及ぼすことを得ずして、商工立國の大勢は滔々として大河を決する概ありき。

商工業の大發展は自づから貨物運輸及人の移動旅行の絶へざる増大を伴ふ。試に旅行を觀る一方には都會生活の上進難雜を加へ行くに伴ひ快樂慰籍の爲にする行樂旅行益々繁きを加ふると同時に、他方には盛に各地角を往來する商業旅行者の商界情報を蒐集し市況を研究し注文を纏むるあり、商工界の將帥銀行家金融家の異地多數の會社重役として頻りに長途の旅行を試むるありて交通機關の發達は無前の盛を致したり。今二三の數字を舉ぐれば、一九〇一年に於

ける幹線鐵道に依る貨物運送は三億五千二百五十二萬六千噸、運賃收入六千八十萬磅を出でざりしに、一九一〇年には各々五億七千五百三十萬噸及九千五百萬磅を超へ、一九〇一年に於ける同上旅客は八億七千六百萬人、運賃收入二千八百萬磅に過ぎざりしに、一九一〇年には各々十五億四千百萬人及四千二百七十五萬磅に達したり。之に加ふるに支線輕便線及電氣鐵道に依る運輸交通を加算すれば實に夥しき發達を示せるや言を俟たずとす。次に鐵道運送の外殊に貨物運輸に就き河川運送が演じたる重要な役割を逸す可らず。巨額の工事費は運河開鑿及水路改善に注入せられて航行延長は八千哩に達し、獨逸國內の貨物運輸總計の約二割五分は之に依るなり。然れど河川運送に比較し更に數段の大發達を遂げたるものは言ふまでもなく獨逸海運業にして、蒸氣船舶機關の進歩改良相亞いで出現せる時に當り、驚異す可き同國外國貿易の大

振張あるに會して此勢は大に助長せられたるなり。一八七一年に於ける獨逸海運業は僅に純噸數八萬二千、隻數百四十七、船員四千七百三十六に依りて其全勢力を代表せられたるに過ぎざりしが、一九一二年に於ては三百二萬三千七百十五噸、四千四百三十三隻及七萬五千三百三十人の勢力を呈するに至れり。漢堡亞米利加及北獨逸呂以帑の二大企業が世界の海運界に占め得たる最も高き地位に就ては、遍ねく世人の熟知する所茲に贅説を須めず。

註、思ふに獨逸製品、英國へ輸出するに事實上斯く標示することを強制せられたる謂ゆる獨逸製品 *Made in Germany* が濫消ドローツ海峽を越へ更に世界各角を侵襲したる、將又一八七四年には英、米、佛、獨の順序に立てる獨逸海運業が、一八八四年俄然衰頹せる米國を凌ぎ、一八八九年佛蘭西を抜き、一九〇八年其二百三十二萬純噸を以て世界海運

全勢力二千六十三萬三千純噸の一割一分二厘を割有して、かの無慮一千三十五萬純噸を以て同五割二分を占有する英國海運業の大牙營に肉迫したる、凡そ是等は英獨經濟的優秀の抗爭延いて政治的抗爭を醸成したる所由たるなからんや加ふるに獨逸海運業比年非常の加速度を以て發展しつつありしに對し、英國海上運送業の發達は比較的遲緩たりしに於てをや。(Riese, a. a. O. S. 121.) 而て兩國海運業の消長を代表するものは、英國のキューナードに對する獨逸の漢堡亞米利郵船會社 *Die Hamburg-Amerikanische Paketschiffahrt-Aktiengesellschaft* 及北獨逸呂以帑會社 *Der Norddeutsche Lloyd* の競争たることは世人の熟知する所、然るに此一片の抗爭史に就て吾人に甚大の興味を興ふるものは、海運業補助金問題に

就て、保護的光彩の濃厚なる獨逸にありて薄く、却て英國に於て厚きを發見する事實なりとす。政府補助金は僅に北獨逸呂以帑の定期線及獨逸東阿弗利加會社の東洋方面定期線に限られ、一九〇九年中獨逸政府の支出したる補助金總額は郵便物運送費をも加算して僅々七百四十四萬麻克、即ち一純噸一・八五麻克に過ぎずとす。此小額に對比して、英國政府は一キューナード汽船會社のみに一九〇二年以降十五萬磅の補助金を交付する外、同社に對し年二分七厘五毛の低利資金二百六十萬磅を貸下ぐ。而て同國に於ける海運業補助金總額は三千四百萬麻克、一登簿噸一・九五麻克なりとす。次に去りて佛、奧、日等に至れば其補助金の割合は非常に巨大なるを示し、佛蘭西は補助金總額五千三百萬麻克、一登簿

噸二十八麻克、埃甸國は同二千六百萬麻克、同二十六・七麻克、日本は同二千八百五十萬麻克、同二十四・七麻克を算す。(Rieser, a. a. O. S. 122.) 斯く海運業發達の軌跡及補助金の厚薄を觀じ來りて獨逸海運の迅速長足の進歩發達の裡に伏在せる理由を按ずるに其原因多々ある可しと雖も、海運業經營上の合縱連衡の巧妙、工業銀行業の大發達に俾指せざる可らず。概言すれば同國銀行業、工業、海運業の發達の間には緊切分離す可らざる因果關係存するなり。(未完)

經濟政策に關する山本助教の答辯に答ふ

松 崎 壽

六月號の本誌に於て提出したる予の反問に對し、山本氏が前號の本誌に於て再度指教を垂れたるは予の光榮とする所なり。然れども予の疑問は今回の氏の答辯によりても尙氷解するに至らざることを告白せざるを得ず。加之論争の進むに従ひ氏の論旨が漸く支路に奔りて當初の主要を離れむとし、或は單に用語の末に就て辯明を事とするが如き傾向あるは讀者に對して甚だ迷惑なるのみならず、學問の進歩の爲めにも毫も裨益なきものにして大に憤まざるべからざることなりと信ず。尙氏の議論に於て予の最

も遺憾に感ずるは氏が卑見を以て誤解なり曲解なりとし、殊に予が故意に氏の所説を曲解して駁論を弄ぶが如き口吻を漏らさるゝこと是なり。予は從來我學界(少くとも我經濟學界)に於て行はるゝ論争が較もすれば、誤解呼ばり曲解呼ばりの爲めに龍頭蛇尾に葬り去らるゝを看て常に心外に感ぜる者なるを以て、予自身の論争に於ては可成斯る事を避け虚心懺悔に對手の主張を吟味して文意其儘に解釋せむと努めつゝある次第なり。此事は呉れ呉れも讀者の了察を乞はざるを得ざる點なりとす。

冒頭端なくも餘事に亘りたるが、予は今回兩度に亘れる氏の答辯を併讀し始めて予が何故に氏の所謂社會政策と經濟政策との區別を無意義なりと看る理由の未だ以て十分に氏に通達し居らざるに非るやを發見したり。果して然りとせば此は恐らく予の不文なりしにも由るなるべけれど又一つは論旨の簡明を期するの趣意より可

及的贅長なる記述を避けたるにもよるものなるべし。依つて本稿にては幾分管々しき嫌あれども、三月號及び六月號に於て述べたる予の説明中不十分なりしと思はるゝ點を更に詳説補足して山本氏の再讀を乞ひ、併せて前號に於ける氏の答辯に論及することゝしたり。

元來予が山本氏の所説を一讀して最も解し難しと思ひたる點は、氏が社會的生活と經濟的生活延て社會政策と經濟政策との間に無用の限界を設けたることなり。而して此内前提となるは前者即ち社會的生活と經濟的生活との區別なるが故に、主として此關係に就て述べむに予の考ふる所に據れば社會的生活と經濟的生活とは夫々人類生活の別個の方面として對立せるものにはあらずして、經濟生活は實は社會的生活の一方面に過ぎざるなり。想ふに吾人々類は今日に於ては決して孤立的の生活を營むことなく、